対象地域：宮城県

再生課題：干潟の保全・再生

蒲生干潟自然再生協議会

（がもうひがた）

再生目標

渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と、空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出を目指す。

蒲生干潟は、仙台港の建設や河川改修工事によって人為的に形成されたもので、淡水と海水が混じる汽水域となっており、シギ・チドリ類の渡りの中継地やコクガンの越冬南限地であるなど国際的にも重要な役割を果たしています。

しかし、平成23年3月の東日本大震災による津波の影響を受け、蒲生干潟の湿地環境は激変しました。現在自然の力で回復しつつある渡り鳥にとって良好な自然環境の保全と利活用に向け、どのような取組ができるのか、検討を進めています。

○ 事務局
宮城県自然保護課 等
○ 対象地域
宮城県仙台市
（国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区）
○ 協議会　：H17. 6.19 設立
○ 全体構想：H18. 9.16 策定
○ 実施計画：H20. 3.29 策定
（東日本大震災による地形・環境変化に伴う全体構想の再検討中）
（R7.3現在）

自然再生の手法

- 多様な生物を育む干潟の保全・復元
- 湿地を維持する水環境の再生
- 砂浜環境の保全・回復
- 環境保全活動・環境教育の推進および各主体が交流する場の創出

コクガン

平成21年3月

平成23年3月12日
（国土地理院提供）

平成25年8月26日

令和元年